

第6学年道徳科学習指導案

令和5年6月28日(水)

わくわく・どきどき・チャレンジ蔵前 Next stage へ ～協働×問い=深い学び～

目指す児童像：他者と協働することで、多様な考えを受け止め、関連付けながら学びを深める子

- 1 主題名** くじけずに努力する (A 希望と勇気, 努力と強い意志)
- 2 ねらい** 困難な状況に立たされてもくじけずに努力し続ける加瀬三郎の姿を通して、希望をもち努力する良さに気づき、目標に向かって努力しようとする心情を育てる。
- 3 教材名** 「折り紙でたくさんの笑顔を」(出典：『かがやけみらい』小学校道徳6年 学校図書)

4 主題設定の理由

本主題は、小学校学習指導要領(平成29年7月告示)

特別の教科 道徳 第2内容

A 主として自分自身に関すること

[希望と勇気, 努力と強い意志] 第5学年及び第6学年

より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

(1) ねらいとする道徳的価値について

本時のねらいでもある「困難な状況に立たされても希望をもち努力する良さに気づき、目標に向かって努力しようとする心情を育てる」ためには、児童自身が自分に合った目標を設定し、見通しをもって粘り強く努力することで、より良い自分になりたいという向上心と結び付く。そして、前向きな自己の生き方が自覚できるようになる。しかしこの時期の児童は自分の夢や希望を膨らませる一方で、自分に自信がもてなかったり周りに流されたり、思うような結果が出なかったりして現実との違いを意識する。

本時を通して困難な状況で苦しくてもくじけずに努力し、失敗を経験しながら夢を実現した人物の生き方に触れ、努力し続けることで得られる達成感や充実感に気づき、自分の目標に向かって努力しようとする思いが自己実現につながることに気付かせたい。

(2) 児童の実態

略

(3) 教材について

盲目の折り紙作家、加瀬三郎の半生が描かれている。小学校5年生で視力を失った加瀬三郎が指の感覚だけで失敗を重ねながら折り紙に挑戦し、そこから希望を見出し数々のオリジナル作品を生み出す。カメラマンの田島栄次との出会いをきっかけに、世界各地の子供たちと折り紙を通して交流するようになる。

盲目のハンデを負いながらも、自ら決めた「折り紙」という目標に向かって努力を重ね、世界中の子供たちと交流することができた加瀬三郎の生き方や心情を見つめることで、「困難な状況に直面してもそれに負けずに努力を続けた先にある達成感や充実感」について考えさせたい。その上で、自分自身の経験や体験と結び付けて考えることを通して、困難な状況でも希望をもち努力し続けることの良さに気付き、目標をもって努力する気持ちを高めていく。

5 研究主題に迫るための手立て

「協働×問い＝深い学び」を実現させるための工夫

手立て① 4つの問いの工夫

- ・教材提示を行う際に、児童が教科書を持って範読を聞くのではなく、プレゼンテーションソフトを活用することで、教材の内容理解につなげる。(理解の問い)
- ・展開前段において児童の思考の流れがねらいとする価値に向かうように、3つの発問を設定する。(関連の問い)

手立て② 自分の考え方のもたせ方の工夫

- ・板書において色分けや記号などを用いることで、加瀬三郎が困難を乗り越えることで得られた達成感や充実感に気付かせる。
- ・自分の考えをもてるようにするための視点を掲示する。(p.6 参照)

手立て③ 協働の工夫

- ・第3発問の際には、個人で考えた後、学習班で交流させ、全体発表することにより主体的に関わり、様々な考えに触れることができるようにする。全体発表では自分たちの班にはない班の考えについて、意見を述べさせることで、さらに考えを深めさせる。

6 本時

(1) ねらい

困難な状況に立たされてもくじけずに努力し続ける加瀬三郎の姿を通して、希望をもち努力する良さに気づき、目標に向かって努力しようとする心情を育てる。

(2) 展開

	○：学習活動	T：教師の問い C：予想される児童の反応	◎：指導上の留意点 □：評価 ・手立て
導入 (3分)	○本時の学習の見通しをもつ。	T:以前、みなさんに道徳のアンケートをしました。結果を見てみましょう。 T:今日は「くじけずに努力する」ことについて考えていきます。	◎事前アンケート結果を提示し、主題に対する課題意識をもたせる。
展開前段 (25分)	2教材「折り紙でたくさんの笑顔を」を読んで、話し合う。	<u>第1発問</u> T:何度も折る練習を続ける三郎はどんなことを考えていたのでしょうか。 C:自分で始めたことだから、諦めたくない。 C:もっとできるようになりたい。 C:難しい…。 C:自分には、無理かもしれない。 <u>第2発問 (中心発問)</u> T:ベトナムの子どもたちの驚きと喜びの声を聞いて三郎はどんなことを感じたのでしょうか。 C:言葉が通じなくても、喜んでくれている。私も嬉しい。 C:子供たちが喜んでくれて、良かった。 C:折り紙をがんばってきて良かった。	◎範読前に、折り紙大使である加藤三郎の人物像について触れる。 ◎教材の内容の理解を深めるために、プレゼンテーションソフトを活用する。 ・手立て① ◎折り紙と出会う前も、いくつかの困難があり、それを乗り越えてきたことに触れる。 ◎困難に直面した際の三郎の行動から、その思いを考えさせる。 ◎子供たちの喜びが自分の喜びにつながっていることを押さえる。 ◎考える時間を十分に確保することで自分の考えをもたせる。 ・手立て②

		<p>第3発問</p> <p>T:いろいろな困難があっても、くじけずに努力する三郎さんが得られたものはなんだろう。</p> <p>C:困難なことがあっても、努力することで自分の成長につながる。</p> <p>C:努力することが他人や自分の喜びにつながる。</p> <p>C:努力することは大切だ。</p>	<p>◎友達との交流、班ごとの発表を通して自分の考えを深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手立て②③ <p>◎三郎の生き方を通して、主題についてあらためて考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手立て②
展開後段 (15分)	3 自分自身について振り返る。	<p>T:今日の学習を通して、自分自身を振り返ってみましょう。</p> <p>C:今までの自分は、直ぐに諦めてしまっていたけれど、これからは一生懸命頑張っていきたい。</p> <p>C:努力すると自分も良い気持ちになれることが分かった。</p>	<p>◎自分自身の経験と結び付けることで、主題に迫り考えを深められるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手立て①② <p>◎事前アンケートを再提示し、以前の考えに触れられるようにする。</p>
終末 (2分)	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の経験を話し、児童にとって身近な人も努力している姿を捉えられるようにする。

7 板書計画

くじけずに努力する	「折り紙でたくさんの笑顔を」	三郎さんが得られたもの
加瀬三郎 (写真)	働くだけで、つまらない人生になってしまう！ しゅみをもちたい。 折り紙ならできそうだ。	1班
		2班
		3班
		4班
自分で!!	ベトナムの子どもたちの おどろきと喜びの声を聞いて	5班
何度も折る練習を続けているとき	・子どもたちが喜んでくれている。 ・折り紙を頑張ってきてよかった。 ・私もうれしい。	6班
・難しい…。 ・もっとできるようになりたい。 ・自分で始めたから、諦めたくない。	場面絵	7班
場面絵		8班
		世界で活動する 加瀬三郎の写真

振り返りの視点

学び 知る

- ①新しく分かったこと
- ②もっと考えてみたいこと

友達 比べる

- ③友達の考えで共感したこと
- ④自分と違う考えにふれたこと
- ⑤黒板に書いてある言葉について考えたこと

自分 見つめる

- ⑥これまでの自分を振り返って気付いたこと
- ⑦そのような場面を見たときに考えたこと
- ⑧今後、自分の心に残しておきたいこと
- ⑨最初の自分と、今の自分で、考えが変わったこと
- ⑩これからの自分の生活に生かしたいこと

価値理解

他者理解

自己理解

